



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二九五号）

春分 しゅんぶん
三月二十一日

芽おこしの雨

先日、参加した句会である雨を知りました。

芽おこしの雨となりたる塩の道 紀子

「芽」は特定の木や草ではなく、春になって芽吹き萌え出すさまざまな芽の総称で、「ものの芽」という季語にもなっています。「芽おこしの雨」は、草木の芽ぶきを促す春先の雨のこと。雨は芽吹きに欠かせない役割ももっているのです。

日本には四百以上の雨の名前があるとされますが、名前を知ると、また新たな雨を知ったように思います。「芽おこしの雨」は温かい雨も、冷たい雨もあります。雨に春の訪れを気づくのは、人とて同じ。ひと雨ごとに芽吹きが進みます。

春の雨は、春雨 はるさめ をはじめ、まだまだあります。数日間続く雨が「春霖 しゅんりん」、急に降り出すにわか雨は「春の驟雨 しゅうう」、菜の花が咲く頃に降り続く「菜種梅雨」、そして桜を濡らす「花の雨」など。春は雨の名の多い季節でもあるのです。

俳句に詠まれた「塩の道」は、海岸部から内陸部へ塩を運ぶ道をいいます。岩塩などに乏しい日本は、古来海水から塩を採ってきたため、いくつものルートが拓けています。

しかし、伊勢にある「塩の道」は、伊勢神宮に納める「御塩」を運ぶ道なのです。二見浦の御塩浜 みしおほま で採取した濃い潮水を煮詰めたものを、さらに三角錐 すい の土器に詰めて焼いた「堅塩 かたしお」。その作業は三月四日から作業が始まり、仕上がった「堅塩」は伊勢神宮の外宮へ運ばれました。塩の道に降る雨に、恵みを感じます。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 五十鈴川桜まつり

日本人の習いと楽しみを受け継いだお花見をおかげ横丁で。五十鈴川の桜を愛でながら、うらかな春のひとつときをお過ごし下さい。

と き / 4月上旬 (桜の見頃の時期に合わせて)

ところ / 五十鈴川野遊びどころ一帯

● 花見屋台

田楽、団子、お酒、花見料理などの風流な屋台がならびます。また、満開時の週末を中心に夜間営業も予定しています。

と き / 4月上旬 (桜の見頃の時期に合わせて)

10:00～(雨天中止)

● 夜桜のライトアップ

日没より、五十鈴川野遊びどころから新橋周辺の夜桜をライトアップします。風のない日は、五十鈴川の水面に映る美しい桜もお楽しみください。

と き / 満開の頃 19:00～21:00

※雨天時は中止させていただく場合もあります。予めお問い合わせの上、お越しください。

● 春の特別奉納芸能

五穀豊穡を祈り、和太鼓の演奏を披露します。

と き / 4月6日(土) 7日(日) 14:00～、19:00～

ところ / 五十鈴川野遊びどころ特設会場

入場料 / 無料

出演 / 4月6日(土) 和力、7日(日) 和太鼓集団 志多ら

五十鈴塾

○ 枝垂れ桜に酔う

熊野古道が町の真ん中を通る大紀町は古くから開けた町です。大紀町役場柏崎支所前にある枝垂れ桜、県道にまで覆いかぶさるようにそれは見事に咲きます。その隣にある大きなお寺大蓮寺さんは、花の寺として有名です。一年中何か咲いているそうですが、春はまたひときわ美しい様子です。ご住職のお話を聞きながら後ろの山につながる遊歩道を散策します。

近くにある権大夫屋敷、北畠氏の家臣であった山崎権大夫の屋敷で、江戸時代に建てられたもの、内部が整備され見学できます。阿曾に戻りもう一つの名物桜、龍祥寺の枝垂れ桜を鑑賞します。ここにはもう一つ、皆さんに枝垂れ椿といわれている大きな椿の木があります。同じ時期に咲くそうで、これも楽しみのひとつです。

と き / 3月26日(火) 10:00～16:00

参加費 / 一般6,500円 会員6,000円

(バス代・昼食代・見学科・保険料含む)

場 所 / 9:55に五十鈴川駅集合

※お問い合わせ・お申込み 0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 節気菓子

はる かわ
春の川

五十鈴川の流りがほんのり桜色に染まり、美しい風情を醸し出しています。色付けした葛寒天で桜餡を包み、春爛漫の気分満ちた川端の景色を表しました。

の
野あそび

はるか昔から、人々が楽しみ、愛し続けてきた春の野遊び。古人の心を想い、よもぎの草餅をこしらえました。懐かしい摘み草の思い出が帰ってきます。

おう か
桜香

咲く様も散る様も美しく、古来より愛されてきた桜の花。こし餡を包んだ薯蕷ねりきりで桜の花をかたちどりしました。やわらかに香る春をお楽しみください。